

～ご縁に感謝～ 自分を信じて、柔軟な決断を！

機能材料工学科H22年卒 山本 真緒

邪馬台国の女王・卑弥呼が眠る“箸墓古墳”の近く、日本最古の神社の“大神神社”のお膝元で、私は奈良県職員として勤務しています。大学入学時も就職活動を始めた頃も、民間企業の技術者になると思っていた私が、地方公務員の研究員となった人生に縁を感じています。女子学生の皆さんも貴重な学生生活を謳歌されていると思いますが、一方で卒業後に不安を抱えている方、進路に悩んでいる方も多いのではないのでしょうか。またこれまで理系女性の技術系公務員の実態もあまり身近で聞く機会はなかったのではないかと思います。“エール”なんて格好のいいことは語れないので、この寄稿を通して、地方公務員を将来の選択肢の1つとして考えていただく参考になればと思い、執筆させていただきました。

私は、大阪生まれ奈良育ち、山口県には全く縁がありませんでした。他大学のAO入試時にガラス材料を用いた模擬授業があり、材料工学の魅力に取りつかれ、機能材料工学科の門を叩きました。未知の土地での初めての一人暮らしに期待と不安を抱えながら山口の地を踏んだことを今では懐かしく思います。

学部3年の学年末、研究室に配属され、私は喜多英敏先生と田中一宏先生の元で大学院修了時までお世話になることとなります。この研究室の所属は当初は機能材料工学科でしたが、途中で循環環境工学科に組織変えされました。それによって、大学院進学時には理工学研究科環境共生系専攻の一員になり、環境分野へ足を踏み入れることとなります。大学院での環境関連の講義は常に面白く、違う



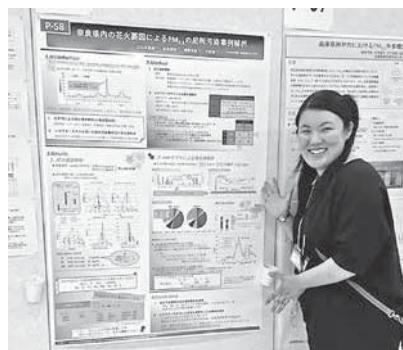
学科の先生方から学ぶ新鮮さもあり、材料工学から環境工学へ興味がシフトした時期でもありました。

大学院1年の終盤、お決まりのように就職活動を始めました。しかし、就職氷河期の時代、希望の会社となかなか出会えず、半ばあきらめモードが漂っていたGWの頃、母から「県庁を試しに受けてみたら？」と私の人生を変える衝撃の一言が！しかし、当時の私は「スーツを着て（偏見）働くために大学院まで行ったんやない！」と強く反発し突っぱねたことを今でもはっきりと覚えています。結局、数打ち当たれで公務員試験を受けることとなりますが、その試験がまたまた衝撃的でした。民間企業では、氏名・大学等のバックグラウンドから入る面接が多かったのですが、公務員試験では「Aさん」と呼ばれ、上記のような個人情報を話すことも一切なく（今は企業もそのような形かもしれませんが）、性別や学歴、経歴は関係なく、平等に個人の中身をきちんと審査してもらっている感覚を初めて味わいました。その時公務員として働くことへの不安も消え、奈良県庁で働く意思がはっきりと芽生えた瞬間でした。

その結果、“奈良県のことが好きで奈良県

をよくしたい”という熱意が伝わり、“化学職”という職種で採用されました。参考にですが、他の技術職には建築、土木、農学、林学などがあり、自治体の特色にあった職種が各々設定されています。私が在籍する化学職では、県庁での勤務はもちろん、上下水道施設、衛生や環境関連施設等、活躍する場は多岐にわたっています。また、近年では3～5年毎の異動に加え、他の自治体や国（環境省）への派遣といった人事交流も盛んで、多様なキャリア形成が実施されています。

私とはいうと、最初の3年間は県庁の環境部門の大本締め「環境政策課」に配属になりました。ここでは、大気や水環境などの環境法令に関する届出と許可受付事務や常時監視業務の維持及びデータ管理、また環境教育の事業化などの業務を行なっています。この課に配属され、大気測定局の設置や河川の採水・測定、また発生源を排出する事業所への立入実施など、県民の環境維持のために実施されている様々な対策を初めて知りました。県民にとって、一般環境というのは常に清浄であることが当たり前であり、報道などで表面に出る時は非常事態が発生したときが多く、望まれるものではありません。そのため環境分野の仕事は裏方的ではありますが、人が健康に生きていく上で必要な仕事であると感じています。思い入れのある仕事としては、入庁して1年が経とうとした時、PM_{2.5}（微小粒子



第60回大気環境学会にて発表

状物質）が大きく報道され、住民や報道機関対応に追われました。それに伴い、県内の注意喚起の基準制定に携わり、今後この基準値をもって運用することの責任の重さを感じ、非常に重要な経験をしました。次に配属となったのが、現職場「景観・環境総合センター」です。ここでは、環境法令の届出・許可事業所の立入指導部門と環境測定を行っている研究部門が1つになっています。私は、研究部門の大気係に所属し、県内の大気測定（有害大気汚染物質、PM_{2.5}成分分析、環境放射能やアスベスト測定など）を行い、それに加えて、調査研究を実施しています。研究は、県独自の調査と、環境省管轄の国立環境研究所と我々のような地方環境研究所とで全国レベルの調査を行う共同研究があり、現在は「光化学オキシダントおよびPM_{2.5}汚染の地域的・気象的要因の解明」について、国及び他自治体の研究機関と検討を進めています。地方公務員と聞けば、その土地のことだけで限られた仕事しかできない印象を持たれている方も多いかもしれません。しかし、国地方共同で国が今抱えている問題に最先端で立ち向かうことができる仕事です。現在も、研究関連で会議に発表にと、私も全国各地へ飛び回っています。また、一昔前は男性社会だった環境研究部門も、全国的に女性が徐々に活躍の場を広げています。私の係は上司こそ皆男性ですが、係員は皆アラサー女性で頑張っ



業務風景（VOC測定）

ています。近年、働き方改革やワークライフバランスとして、フレックスタイムやテレワーク等、女性が働きやすい制度が公務員の世界にも広がっています。

私も2年前、出産を機に、産休・育休を取得しました。休暇中は仕事のことを忘れて育児に専念できましたが、ふと休暇前のバリバリ働いていた自分を思い出すと、懐かしく悲しくなることもありました。復帰を心待ちにしてくれている職場があることは、休暇中の心の拠り所だったと今では思います。復帰後は時間に追われ、あくせくする日々が続きましたが、勤務時間短縮制度や育児時間取得制度などを活用し、家族の協力や職場の理解にその都度助けられながら1年少しがたった今、やっと自分のペースを築き、働けているように思います。

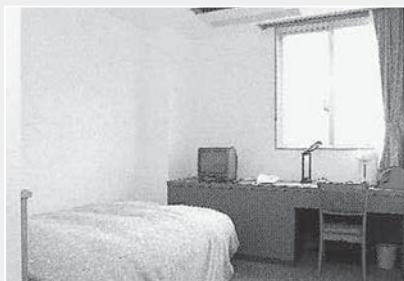
私自身、“母の一言”がなければ、知りえなかった世界です。自分が産まれて20年間思い描いてきた人生とは全く違いましたが、後悔の文字はどこにもありません。それは、人生

の岐路に立たされた時、自分自身が一番納得する方向に柔軟にしっかり決断し、よき縁結びができてきたからだとは思っています。女子学生の皆さんも、これからの人生において、進学・就職・結婚・出産など様々な決断を求められる時が訪れると思います。その都度、自分を大切に、自分にとって最もよい答えを導き出してほしいと思います。そして、よき縁をどんどん作ってほしいと思います。人生100年時代、皆さんが80年後それぞれの人生を振り返る時、いい人生だったと語れることを願っています。

私もまだまだこれからの身です。山口県からは離れた場所にいますが、研究室の同志と環境省の会議で再会したり、上司が山大出身者だったり、今も山大での縁を常を感じながら生活しています。

最後になりましたが、寄稿の機会を与えてくださった田中一宏先生、いつも自由気ままな私を支えてくれる家族、職場の皆に感謝します。

宇部にお越しの際は 常盤工業会会館宿泊施設 をご利用ください！



宿泊施設（洋室シングルルーム）
冷暖房・バス・トイレ・テレビ完備

宿泊料金
会費納入者 1泊 3,000円
その他 1泊 4,000円

昼食、夕食は館内のテナントを利用できます。
朝食は各自で準備ください。
工学部生協学食もご利用いただけます。
工学部正門前にはコンビニもあります。

宿泊の申し込みは、常盤工業会事務局にお電話ください。(TEL 0836-32-7599)